

平成5年度 和歌山県文化賞

つもと とら きち
津 本 寅 吉 (ペンネーム つもと よう
津本 陽)

住 所：和歌山県和歌山市

出 身 地：和歌山県和歌山市

生 年：昭和4年

◎業績及び経歴

昭和26年東北大学法学部卒業。13年間のサラリーマン生活後、昭和41年に同人誌「VIKING」に参加、文筆活動に入る。

昭和41年7月に発表した「丘の家」が、直木賞候補となった。昭和53年、時代遅れの古代捕鯨を守りながら村の発展に命をかける太地の漁師たちを描いた「深重の海」で第79回直木賞を受賞した。

その後も紀州を舞台にした作品を多く書かれ、著書には「蟻の構図」「黄金の天馬」「南海綺譚」「闇の蛟竜」「明治撃剣会」「薩南示現流」「巨人伝」「黄金の海へ」「柳生兵庫助」「新陰流小笠原長治」「人斬り剣奥儀」「お庭番吹雪算長」「男の流儀」等、最近では織田信長の生涯を描いた「下天は夢か」がミリオンセラーとなる。現在まで出版された本、百数十冊、部数は二千万冊にも及ぶなど活躍が目覚ましく、本県に在住する日本を代表する作家として、日本文壇に確固たる地位を築き、和歌山県の文化の発展、振興にも大きく貢献されている。

■現在

「時代小説大賞」選考委員(講談社)

「柴田錬三郎賞」選考委員(集英社)

「松本清張賞」選考委員(文芸春秋)

■主な表彰歴

昭和53年 和歌山県文化奨励賞